

発育の良い子牛生産へ

繁殖牛29頭を入牧

本JAは5月8日、繁殖牛の健康と飼養管理の低コスト・省力化のため、大崎市宮鳴子放牧場に29頭を入牧しました。放牧された牛は、11月ごろに農家が引き取る予定です。

約67分の放牧地へ、事前に健康状態検査と採血による衛生検査を終えた牛を入牧。立ち会った生産者は「10年以上前から毎年行っている。繁殖能力の向上が期待できるので、広々とした牧場で牧草を食べて健康に育してほしい」と語ります。

畜産課担当職員は「放牧により、発育の良い子牛の生産が期待できる。この期間中を牛舎の整備に利用してほしい」と話していました。



今シーズンは大崎市各地から70頭ほどが入牧されました

収穫前の管理を指導

ソラマメ巡回指導会



ソラマメの生育状況を確認する猪苗代さん(右)、本JA職員(中)、同部会の鈴木求部会長(左)

本JAそらまめ部会は5月12日、巡回指導会を開き、収穫までの管理方法や病害虫防除のポイントなどを指導しました。収穫は5月下旬から始まります。

園芸課担当職員と大崎農業改良普及センターの猪苗代翔太さんが部会員と担い手課の圃場16カ所を巡回。猪苗代さんは、収穫までの期間にアブラムシやサビ病、赤色斑点病に注意し、防除を徹底することや草丈が80センチから90センチになったら摘心をするよう指導。「全体的に生育は順調。花付きを良くするためには、リン酸系の肥料を葉面散布すると良い」と説明しました。

園芸課担当職員は「今年は暖冬傾向だったことで5月末から収穫が始まった。品種は例年の「打越一寸」のほか、新たに「緑陵西一寸」を栽培しているので、有利販売につなげていきたい」と話しました。

母の日に手作りカーネーションを

「わいわい茶論」が配布

本JAは5月7日と8日の2日間、独自の福祉活動「わいわい茶論」の活動の一環として母の日に併せ、支店で手作りカーネーションを配布しました。

花は、「わいわい茶論」担当職員が花紙と針金を使って手作りしたもので、色は赤とピンクの2色を作成しました。5月7日、南部支店では「日頃の感謝を込めて、ありがとう」のポスターとともに金融窓口カウンター2カ所に手作りカーネーションを設置。来店者に職員が声をかけると「二輪いただきます。ありがとう」と手作りカーネーションを持ち帰りました。

担当職員は「新型コロナウイルスの感染拡大防止のため外出自粛等で精神的にも疲れている利用者の手に一本でも届けられ、明るい気持ちになってくれればうれしい」と、この取り組みへの経緯を話します。

今回は、感染拡大防止の観点から、手渡しではなく、来店者自身が持っている形式にしました。



手作りカーネーションを手取る来店者